

# 池袋本町 防災まちづくり ニュース

## no.12

池袋区広報印刷物 H20-10-129  
平成10年11月発行

発行 池袋本町防災まちづくりの会  
編集 池袋まちづくり推進課  
問い合わせ先 (財)豊島区街づくり公社  
TEL.03-3981-1111(内)2882  
編集協力 (株)エコーライン  
TEL.03-5709-6131  
印刷 株式会社海友  
TEL.03-3982-4171

## 検討進む池袋中井戸広場

池袋中学校の井戸広場の検討が進んでいます。これは地区の3つの学校に深井戸を設置する計画の一環として行われるもので、昨年の池二小に引き続き整備されるものです。

この深井戸は、災害時にも安定した水量を確保するために整備されます。深さは手で汲むことができる最大の50mです。池二小の深井戸では水質検査の結果、鉄分が多量に検出されたという指摘を受けました。池中也場所が近いので同じ水質になる恐れがあります。

しかし、煮沸すれば飲むことができます。災害時にはどのような備えになるか判りません。いろいろな水源があることが大切だと、まちづくりの会では考えています。広場には深井戸の他に5tの耐震型貯水槽が設置されます。

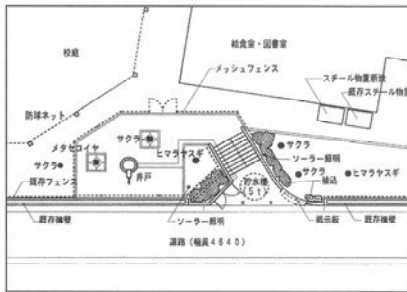
この広場の整備にあたって、学校とPTA、地元町会、まちづくりの会が中心となって池袋中井戸広場検討会をつくり検討が行われています。その結果、給食室の東側の林の中に、現在の擁壁の一部を削って広場を設置することにしました。

池中は校庭が道路より1.5mほど高く、擁壁で仕切られも狭いことから、入りにくいという問題点があります。また、サクラを始めとして大木が育ち、それを避けながら広場をつくらなければならない場所でもあります。そこで井戸広場は、道路の高さに貯水槽を、校庭の高さに井戸を設置して、間階段で結んで災害時の避難がしやすくなるように計画しています。現在、区で設計が行われています。順調に行けば12月頃着工し、

来年3月には完成する予定です。どうぞご期待ください。



▲今春完成した池二小井戸広場



▲現在、検討している池袋中井戸広場の設計図(案)

## 雨天でも防災訓練を決行!

8月30日(日)「池袋本町地区全町会」池袋中・文成小・池二小 通常9月1日(防災の日)に行う総合防災訓練が本年は8月30日に実施されました。

全8町会協議の上で、今回は池袋本町地区が1つの会場で統一の訓練を行うことになりました。全8町会が午前9時の「災害発生」のサイレンと同時にそれぞれ集合センター(避難校)に集合し、訓練会場である池袋中へ移動を行い、移動に要した時間と集合人数を本部に報告して、避難訓練の第1段階を終えました。この段階での集合人数は合計766名でした。

池袋中に集合してから、全町会合同で初期消火訓練を行う予定で開会式を行いました。豊島区第11地区の地域防災本部の大戸地域本部長の開会挨拶が終ると、雨がひどくなり校庭では参加者が濡れてしまうし、校庭が水たまりになるので、一同体育館へ移動しました。参加者は体育館へ15分程度で整然と移動し、

池二小=南町会、中央町会、一丁目町会  
池袋中=四丁目町会、親和町会  
文成小=四丁目町会、親和町会  
と割り当てられています。この移動も結果としては良い訓練になったと思う。防災は一人一人の心がけが第一です。



▲766名が集まった総合防災訓練(池袋中)



▲雨のため体育館に移動した参加者たち

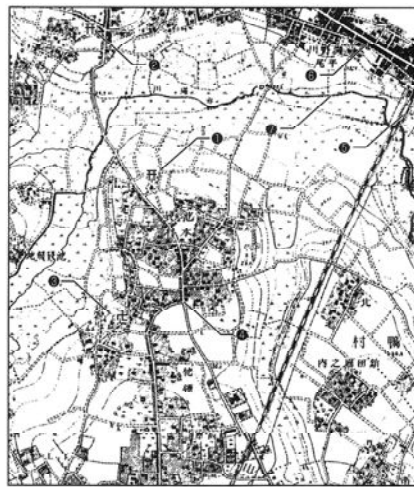
つれづれに一言  
やっぱり気はなるあの「エントツ」  
池袋本町のはんがの場所から見ると、風を分断しているあの高い、タライイ、あの煙突、  
今、二十代、三十代の女性を中心に子宮内腫瘍が増えていると聞かれています。  
一九七〇年までは世界で二十例にすぎなかったのが、昨年増加した厚生省がん研究センターの調査によると、宮内腫瘍患者数は十三万人、国内の患者数は三百三十万人に及び、増加している。  
背景には、ダイオキシン類の増加があるのではないかと聞かれています。一九七七年に始まったサルの実験は、そのことを示唆する結果を無視できないとして、ダイオキシン類の安全基準値を見直し始めているそうです。

## まちのカレンダー 池袋本町の行事あれこれ(平成10年11月から平成11年1月)

11月	12月	1月
1日9時～親和町会、避難訓練と炊き出し(谷端川、北区中央公園)	5日18時～一丁目町会、役員反省会 5日13時～防災まちづくりの会、池二小井戸広場定期清掃	1日12時～14時、四丁目町会、新年賀詞交歓会、氷川神社参拝 1日、末廣町会、初参りの会(氷川神社) 9日13時～防災まちづくりの会、池二小井戸広場定期清掃
1日9時～池袋中、文化祭	6日9時～二丁目町会、もちつき大会(東京交通短大)	中旬、四丁目町会、町会新年会 20日、四丁目町会、資源回収 24日12時～15時、一丁目町会、町会全員の新年会(会場未定)
3日9時～全町会、第11地区地域大運動会(池二小)	6日10時～親和町会、ちびっ子もちつき大会(谷端川)	下旬、二丁目町会、資源回収 末廣町会、新年会(1月中)
6日・7日9時～12時半、文成小、学芸会	7日19時～防災まちづくりの会全体会議(池二小)	
7日13時～防災まちづくりの会、池二小井戸広場定期清掃	16日、四丁目町会、資源回収 16日、二丁目町会、資源回収 20日～26日、宮元町会、歳末防犯夜警実施 25日～29日、親和町会、歳末警戒 25日～28日、二丁目町会、歳末警戒(東京交通短大、テント張り) 26日～29日、四丁目町会、歳末特別警戒 29日、一丁目町会、歳末警戒 宮元町会、成人式対象者調査、歳末助け合い募金実施(12月中) 末廣町会、歳末警戒(12月中)	投稿、情報募集 今後も町会などまちの話題を多く採り入れていきたいと考えております。特に防災や当会へのご意見などありましたら、是非投稿してください。匿名希望でも結構です。また、おもしろい話がありましたらご連絡ください。取材に伺います。 防災まちづくりの会、各部会の会議予定 ・11月4日(水)午後7時～ 水利部会 ・11月12日(木)午後7時～ 防災センター・避難場所部会 ・11月25日(水)午後7時～ 救援救護部会 興味ある方は、各部会、全体会議とも傍聴は可能ですし、承認が得られれば入会もできます。お問い合わせは街づくり公社へ
8日～15日、四丁目町会、秋の防火週間 15日、宮元町会、ボイスタ防止、清掃実施 15日、二丁目町会、資源回収 18日、四丁目町会、資源回収 20日・21日9時～12時、池二小、学芸会(保護者用は21日) 21日、文成小、創立45周年記念式典 末廣町会、池袋防災館、体験・見学会(11月中)		

## まちの歴史 池袋村貝塚と池袋の女

私たちが住む池袋本町は、かつて池袋本村と呼ばれていました。歴史の文獻上に池袋村が登場するのは、永祿2(1559)年2月2日に作成された「小田原領所役帳」(『豊島区史 資料編1』)に、太田新六郎康資の領地として「三貫五百文 池袋」と記されているのが最初です。永祿2年といえは織田信長が今川義元を倒した桶狭間の戦いの1年前です。  
今のところ他に中世の池袋村を知る有力な資料はないのですが、16世紀以前からこの地に「村」があったことは確かです。  
「池袋村貝塚」が明治18(1885)年に、白井亮太郎氏によって氷川神社背後に発見され、まだ設立して間もない人類学会に発表されています。神社から北側を流れる谷端川にかけて発掘された貝塚は、大昔の人々が残した生活の跡で、調査の結果、今から3500年前のものとなりました。つまり、3500年前には氷川神社付近に人が住み、集団生活を営んでいたことが分かります。  
さて、時代はずっと飛びますが、明治時代にも池袋村は寂かな寂しい村でした。その事示す言い伝えが『豊島風土記』(昭和46年発行)に次のように収録されています。  
「明治の未頃まで続く辺鄙な村に住むのが池袋の女であった。村高わずか300石といわれ、東西5丁、南北13丁と細長く広いわりに戸数29、しかも四圍に散る小さな集落は、それぞれ風俗を異にしていたのである。つまり昔の池袋村は外部ともちろんこの隔離され、村内でも集落ごとの行き来は稀であった。村は孤立し、すべての人々は閉鎖的であったのである。だから、他村の者がこの池袋村の女を女中やとったり、めとったりするとたたりがあるとされた。このことは江戸時代から明治時代中頃まで続き、根強く人々に知られており、『なごさみになる化け物は池袋』池袋家鳴り多き中か期で化け」[和寺の騒ぎのような池袋]と多くの川柳に残されている。他村の界のところへ嫁いだり下女となって住み込んだりすると、村の者が意地をはらしたり、いやがらせをしたのである。夜になると外から石を投げた。池袋。石なげをしてほろのる池袋。そんな騒ぎが続きと下女の出身が池袋とした。  
——中略——池袋村に嫁のきてが



明治42年の池袋村(豊島区教育委員「池袋本村」(1996年3月)より) ①氷川神社 ②子安神社 ③重利寺 ④現三つ又 ⑤坂橋駅 ⑥中山道 ⑦谷端川